

## 第5章 外国人・日本人 共通設問の比較

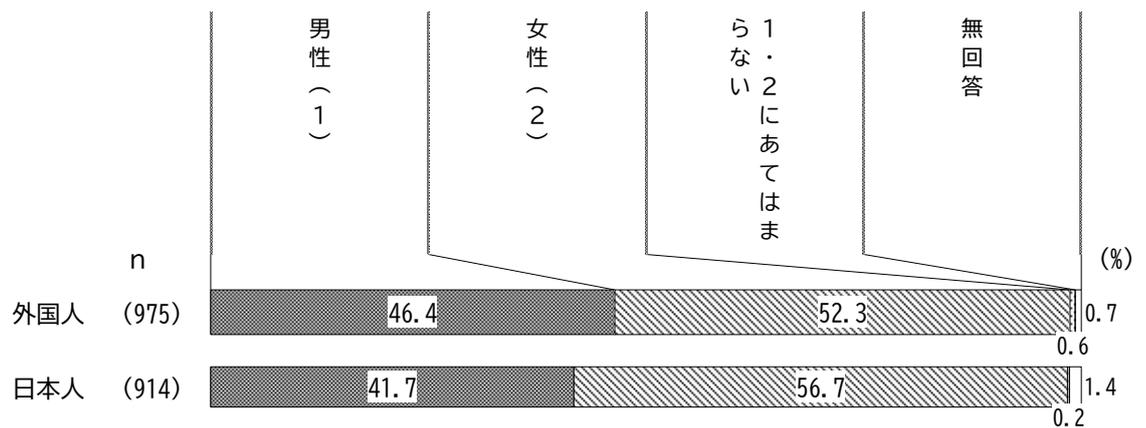


## 1. 回答者の属性

### (1) 性別 (外国人：問1、日本人：問1)

外国人は、「男性」(46.4%)、「女性」(52.3%)に対し、日本人は「男性」(41.7%)、「女性」(56.7%)となっており、外国人・日本人ともに「女性」が高い。

図表 性別 (単一回答)

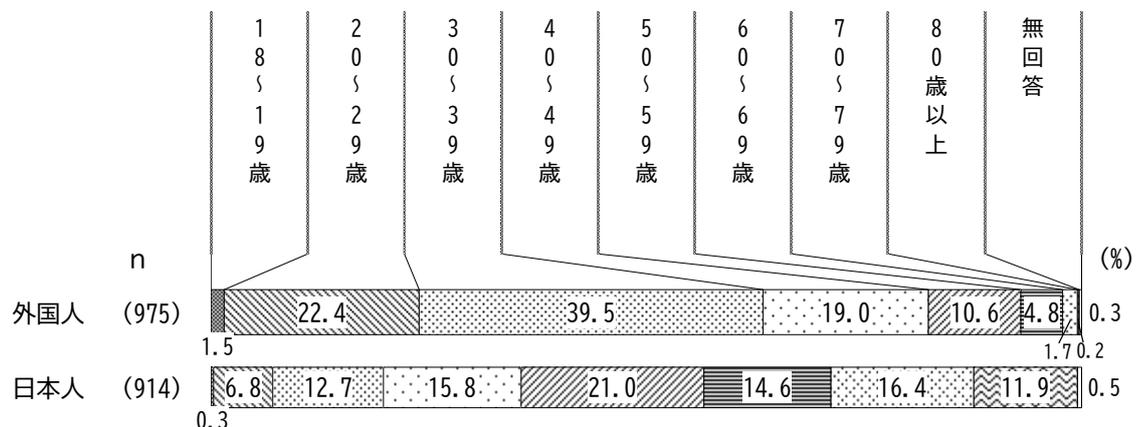


### (2) 年齢 (外国人：問2、日本人：問2)

外国人は、「30～39歳」(39.5%)が最も高かったのに対し、日本人は「50～59歳」(21.0%)が最も高くなっている。

18～49歳を合計すると、外国人は82.4%、日本人は35.6%となり、外国人の方が年代は若く、日本人は年代が分散している。

図表 年齢 (単一回答)

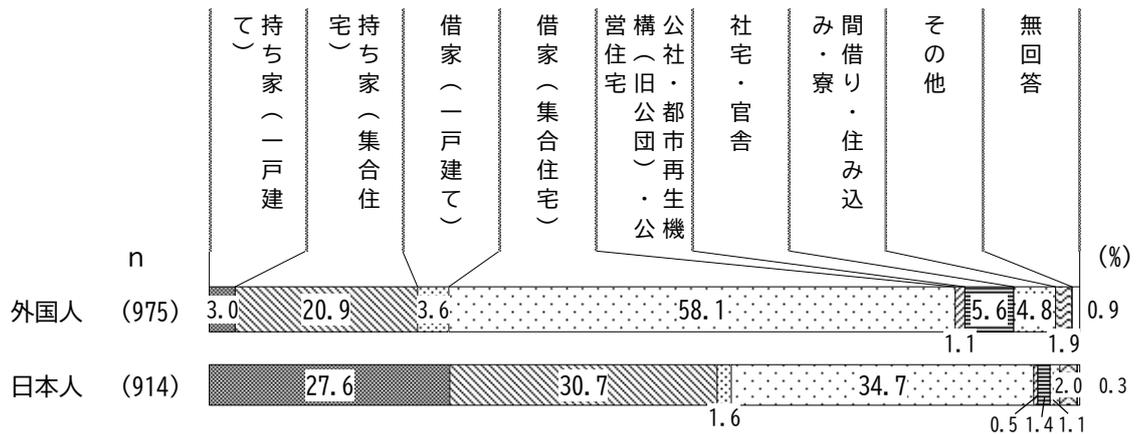


(3) 居住形態 (外国人：問5、日本人：問4)

外国人・日本人ともに、「借家 (集合住宅)」が最も高く、それぞれ58.1%・34.7%となっている。次いで、「持ち家 (集合住宅)」がそれぞれ20.9%・30.7%となっている。

「持ち家 (一戸建て)」「持ち家 (集合住宅)」を合計すると、外国人の23.9%に対し、日本人は58.3%と外国人よりも高くなっている。

図表 居住形態 (単一回答)



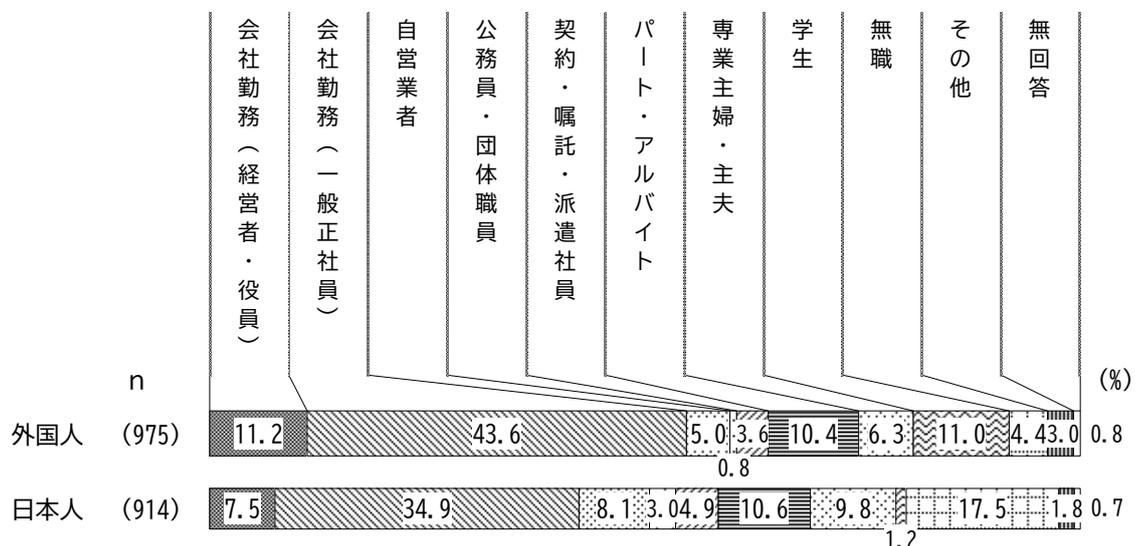
(4) 職業 (外国人：問6、日本人：問3)

外国人・日本人ともに「会社勤務(一般正社員)」が最も高く、それぞれ43.6%・34.9%となっている。

就業者(「会社勤務(経営者・役員)」「会社勤務(一般正社員)」「自営業者」「公務員・団体職員」「契約・嘱託・派遣社員」「パート・アルバイト」の合計)は、外国人(74.6%)、日本人(69.0%)となっており、外国人の方が割合が高い。

「学生」は外国人の11.0%に対し、日本人は1.2%となっている。

図表 職業 (単一回答)

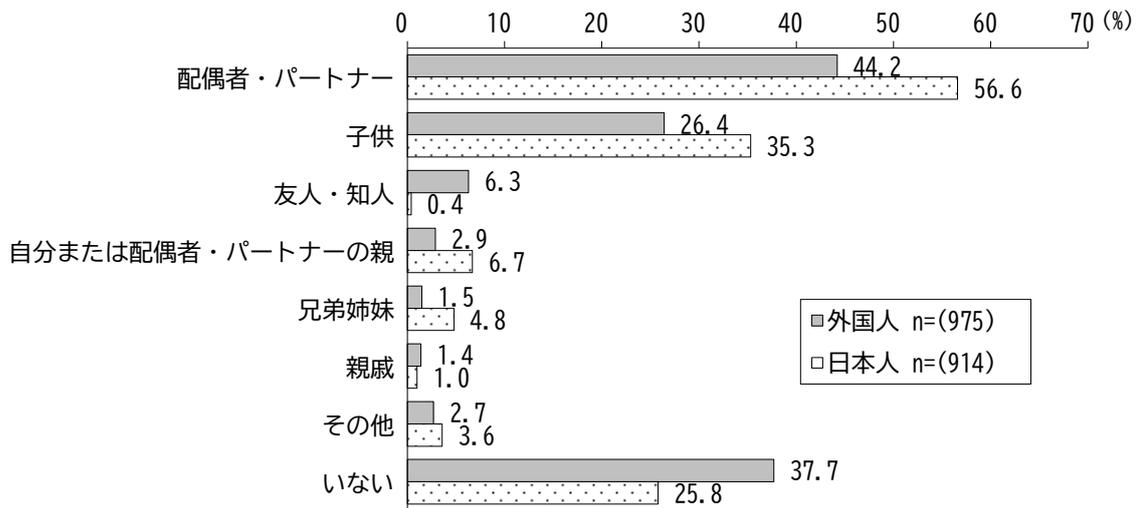


(5) 同居者 (外国人：問8、日本人：問8)

外国人・日本人ともに「配偶者・パートナー」が最も高く、それぞれ44.2%・56.6%となっている。次いで、外国人は「いない」(37.7%)、日本人は「子供」(35.3%)となっている。

外国人は、「友人・知人」が6.3%に対し、日本人は0.4%となっている。

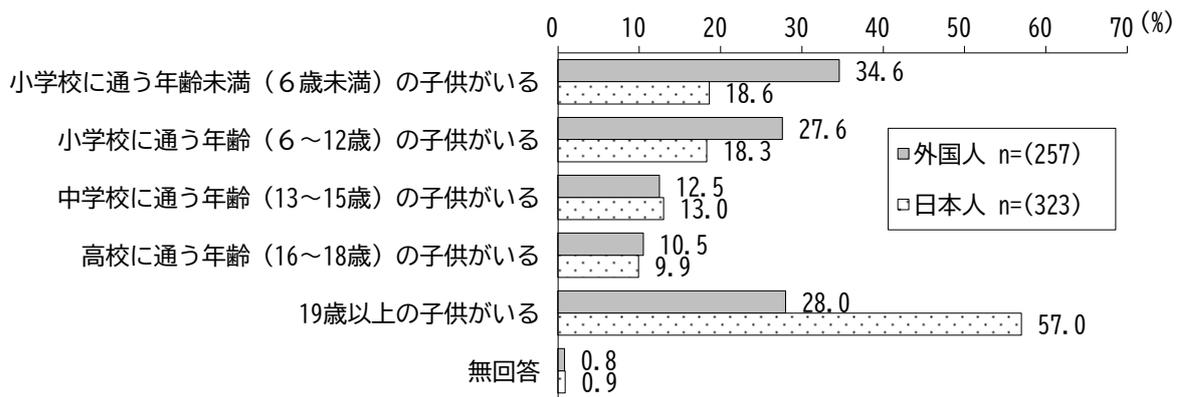
図表 同居者 (複数回答)



(6) 子供の年齢 (外国人：問8-2、日本人：問8-2)

外国人は、「小学校に通う年齢未満 (6歳未満) の子供がいる」(34.6%)が最も高いのに対し、日本人は、「19歳以上の子供がいる」(57.0%)が最も高くなっている。

図表 子供の年齢 (複数回答)

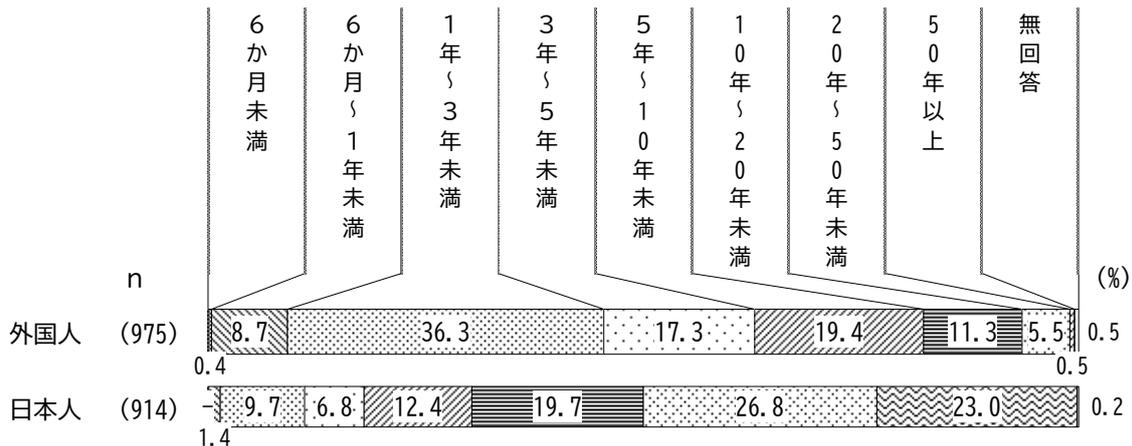


(7) 台東区での居住年数 (外国人：問10、日本人：問5)

外国人は、「1年～3年未満」(36.3%)が最も高いのに対し、日本人は「20年～50年未満」(26.8%)が最も高くなっている。

外国人は、居住年数が5年未満の割合が62.7%で居住年数が短い人が多いのに対し、日本人は10年以上の割合が69.5%と居住年数が長い人が多くなっている。

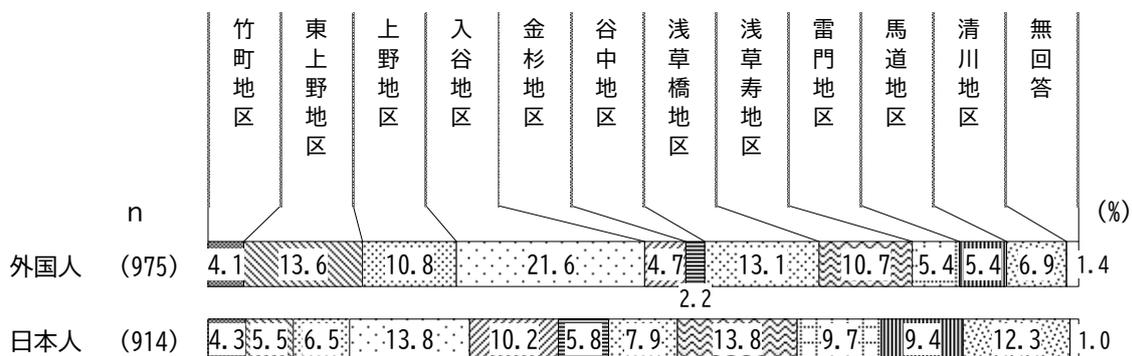
図表 台東区での居住年数 (単一回答)



(8) 居住地域 (外国人：問11、日本人：問6)

外国人は、「入谷地区」(21.6%)が最も高く、「東上野地区」(13.6%)、「浅草橋地区」(13.1%)と続いているのに対し、日本人は「入谷地区」「浅草寿地区」(ともに13.8%)が高く、「清川地区」(12.3%)、「金杉地区」(10.2%)となっている。

図表 居住地域 (単一回答)

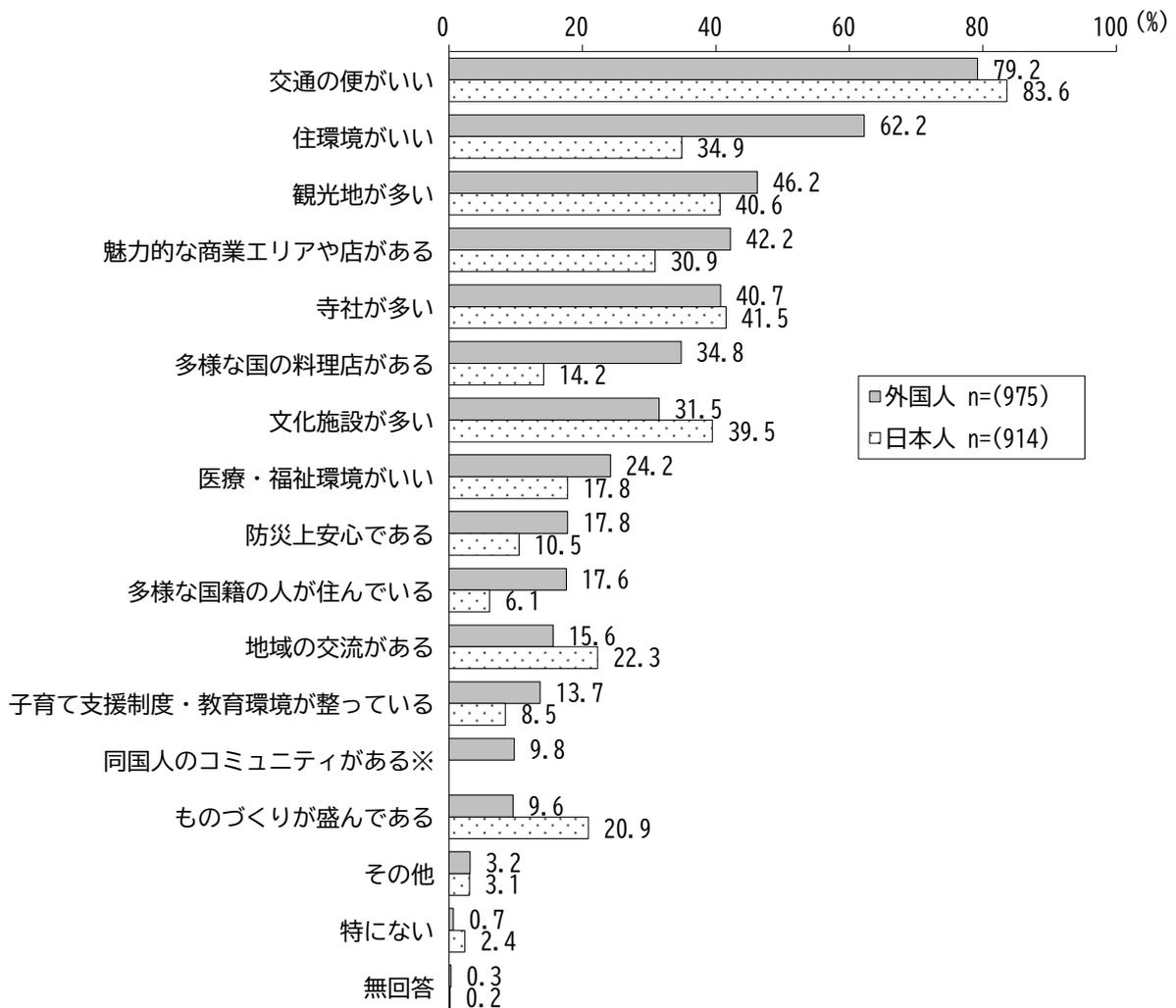


(9) 台東区の魅力 (外国人：問12、日本人：問7)

外国人・日本人ともに「交通の便がいい」が最も高く、79.2%・83.6%となっている。次いで、外国人は「住環境がいい」(62.2%)だが、日本人は「寺社が多い」(41.5%)と2番目の高い項目が異なる。

また、外国人の方が割合が高い項目が多く、特に「住環境がいい」「魅力的な商業エリアや店がある」「多様な国の料理店がある」「多様な国籍の人が済んでいる」は日本人と10ポイント以上の差がある。一方、日本人の方が割合が高い項目は、「文化施設が多い」「地域の交流がある」「ものづくりが盛んである」で5ポイント以上の差がある。

図表 台東区の魅力 (複数回答)



※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の選択肢「同国人のコミュニティがある」は、日本人調査票の選択肢には含めていない。

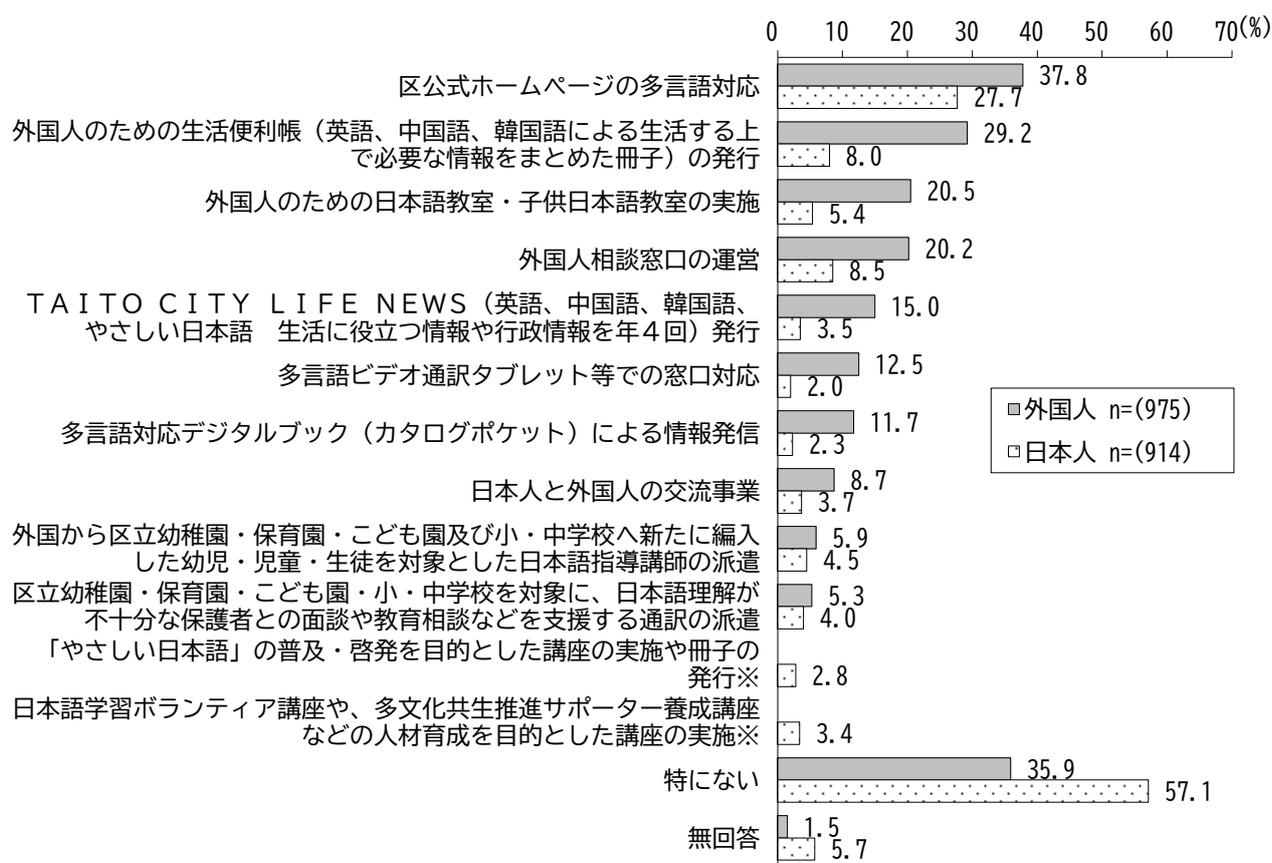
## 2. 台東区の実施について

### (1) 多文化共生に関するサービスや取組の認知度（外国人：問20、日本人：問25）

日本人は、「特になし」が57.1%と最も高く、外国人でも35.9%となっている。知っているサービスや取組としては、外国人・日本人ともに「区公式ホームページの多言語対応」が最も高く、次いで、外国人では「外国人のための生活便利帳（英語、中国語、韓国語による生活する上で必要な情報をまとめた冊子）の発行」、日本人では「外国人相談窓口の運営」となっている。

外国人の上位6項目は日本人よりも10ポイント以上高くなっている。

図表 多文化共生に関するサービスや取組の認知度（複数回答）



※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の設問では「台東区で実施している外国人を対象としたサービスや取組を知っていますか」としており、日本人調査の設問では「台東区が実施している多文化共生に関する取組で知っているものは何ですか」としている。

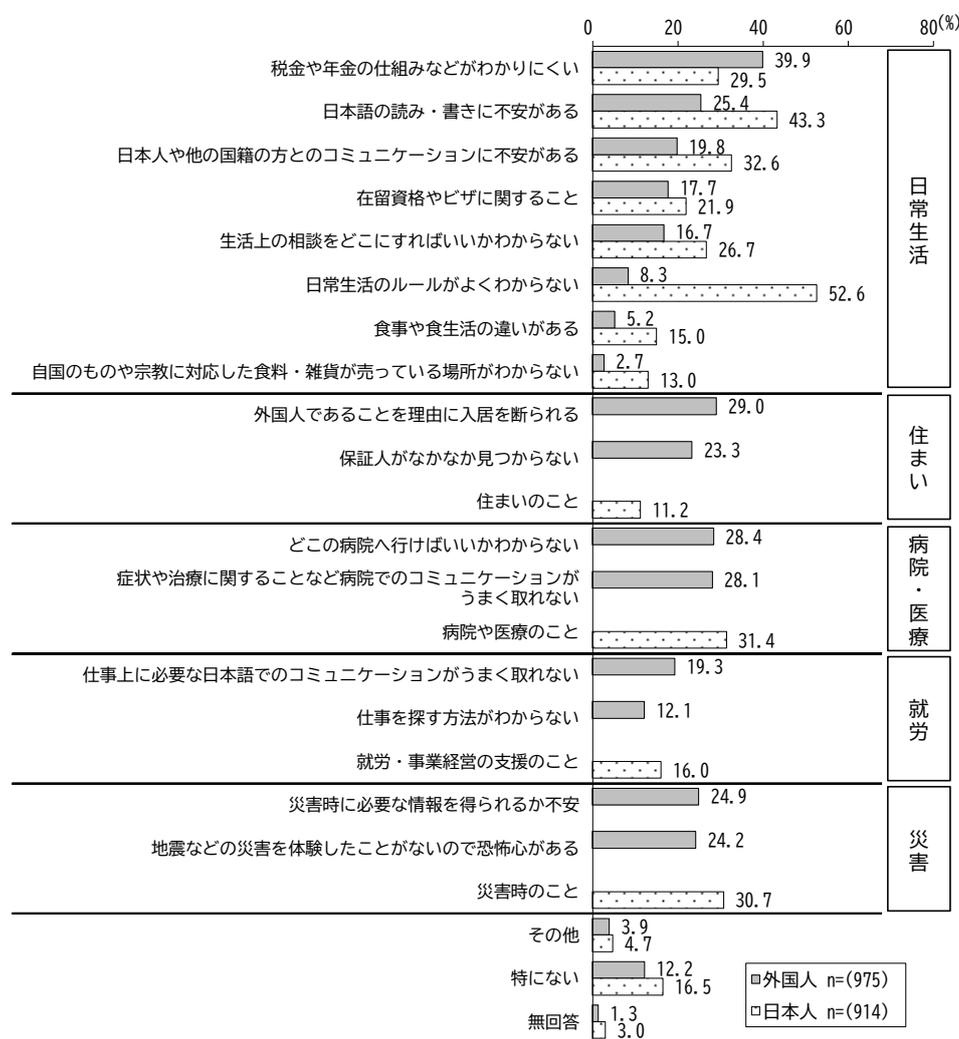
また、日本人調査票の選択肢「「やさしい日本語」の普及・啓発を目的とした講座の実施や冊子の発行」「日本語学習ボランティア講座や、多文化共生推進サポーター養成講座などの人材育成を目的とした講座の実施」は、外国人調査票の選択肢には入っていない。

### 3. 日頃の暮らしについて

(1) 日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと（外国人：問23、日本人：問20）

日本人が思う外国人が困っていることや心配なことは、「日常生活のルールがよくわからない」(52.6%)、「日本語の読み・書きに不安がある」(43.3%)等の割合が高くなっている。一方、外国人は、多くの項目が日本人よりも割合が低く、特に「日常生活のルールがよくわからない」は8.3%と日本人と40ポイント以上の差があり、困っていることに対して、外国人と日本人の認識に差異があることがわかる。なお、外国人は、困っていることや心配なこととして「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」(39.9%)が最も高い。

図表 日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと（複数回答）



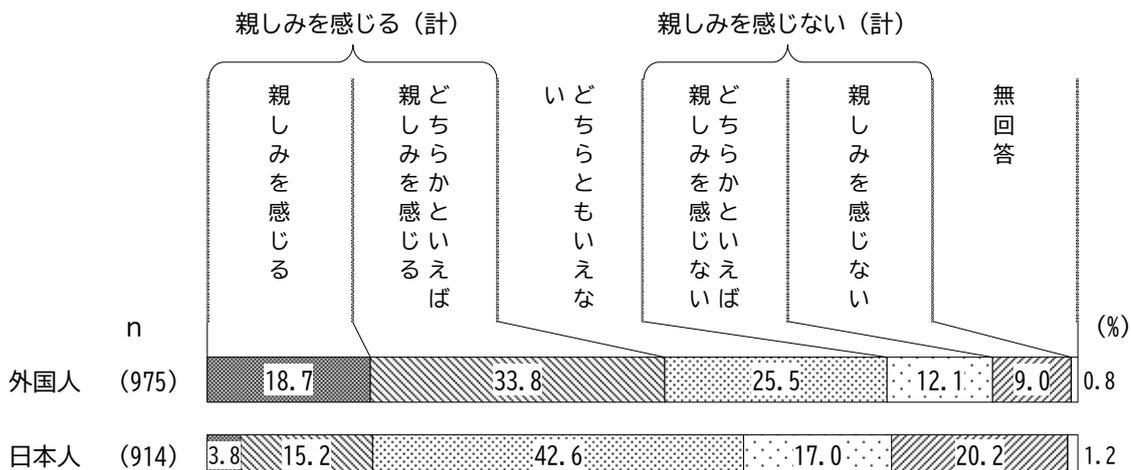
※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の設問では「あなたは、日本での生活で、困っていることや心配なことはありますか」としており、日本人調査の設問では「地域に暮らす外国人が困っていたり、不安を感じていたりすることは何だと思えますか（あるいは何ですか）」としている。  
また、「住まい」「病院・医療」「就労」「災害」については、外国人調査票の上位2項目のみを抜粋して掲載している。

## 4. 地域に暮らす外国人と日本人とのかかわりについて

### (1) 地域の外国人と日本人の相互の親しみ度合（外国人：問33、日本人：問11）

地域の外国人と日本人に対する互いの親しみ度合については、「親しみを感じる」「どちらかといえば親しみを感じる」の合計「親しみを感じる（計）」の割合は、外国人で52.5%に対し、日本人で19.0%と30ポイント以上の差があり、両者の意識に大きな差がみられる。

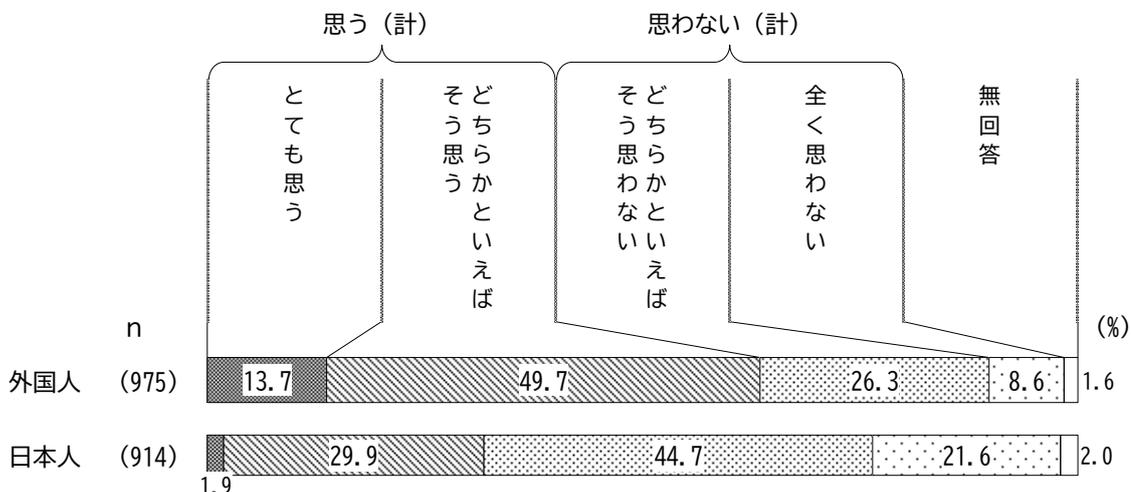
図表 地域の外国人と日本人の相互の親しみ度合（単一回答）



### (2) 外国人と日本人の地域における相互コミュニケーション（外国人：問34、日本人：問12）

地域の中で日本人と外国人が互いにコミュニケーションをとれていると思うかについては、「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の合計「思う（計）」の割合は、外国人で63.4%に対し、日本人は31.8%と30ポイント以上の差があり、両者の間でコミュニケーションの実感に大きな差がみられる。

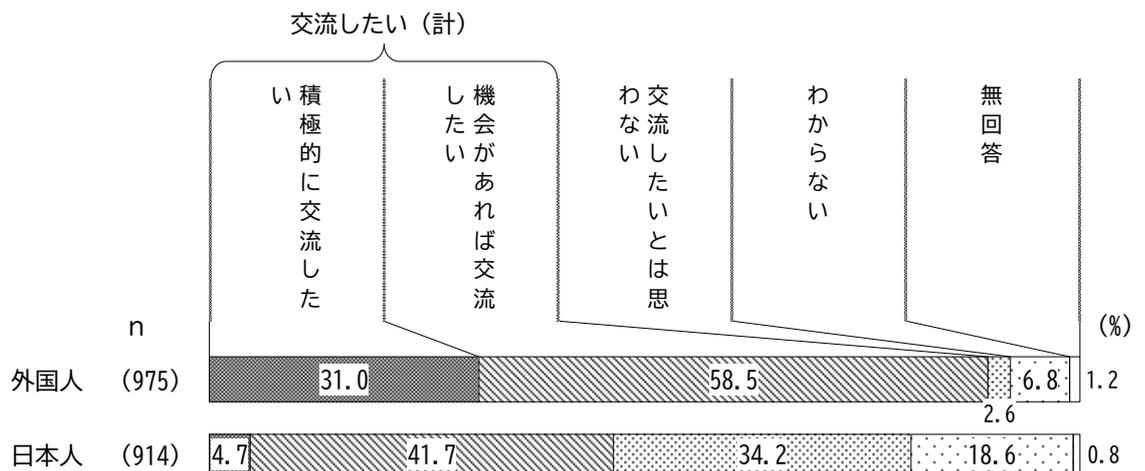
図表 外国人と日本人のコミュニケーションがとれているか（単一回答）



(3) 地域に暮らす外国人と日本人の交流意向 (外国人：問35、日本人：問13)

地域に暮らす外国人と日本人の交流意向については、「積極的に交流したい」「機会があれば交流したい」の合計「交流したい(計)」の割合は、外国人で89.5%に対し、日本人で46.4%と40ポイント以上の差があり、外国人の方が交流に前向きな姿勢を示していることがわかる。

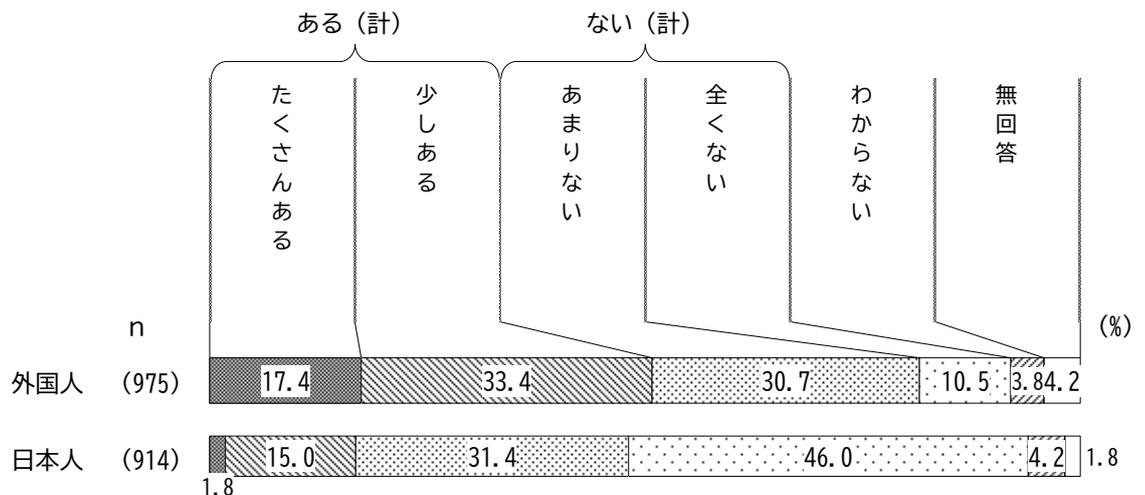
図表 地域に暮らす外国人と日本人の交流意向 (単一回答)



(4) 地域に暮らす外国人と日本人が交流する機会 (外国人：問36、日本人：問14)

地域に暮らす外国人と日本人が交流する機会については、「たくさんある」「少しある」の合計「ある(計)」の割合は、外国人で50.8%に対し、日本人で16.8%と30ポイント以上の差があり、外国人の方が交流する機会が多いと感じていることがわかる。

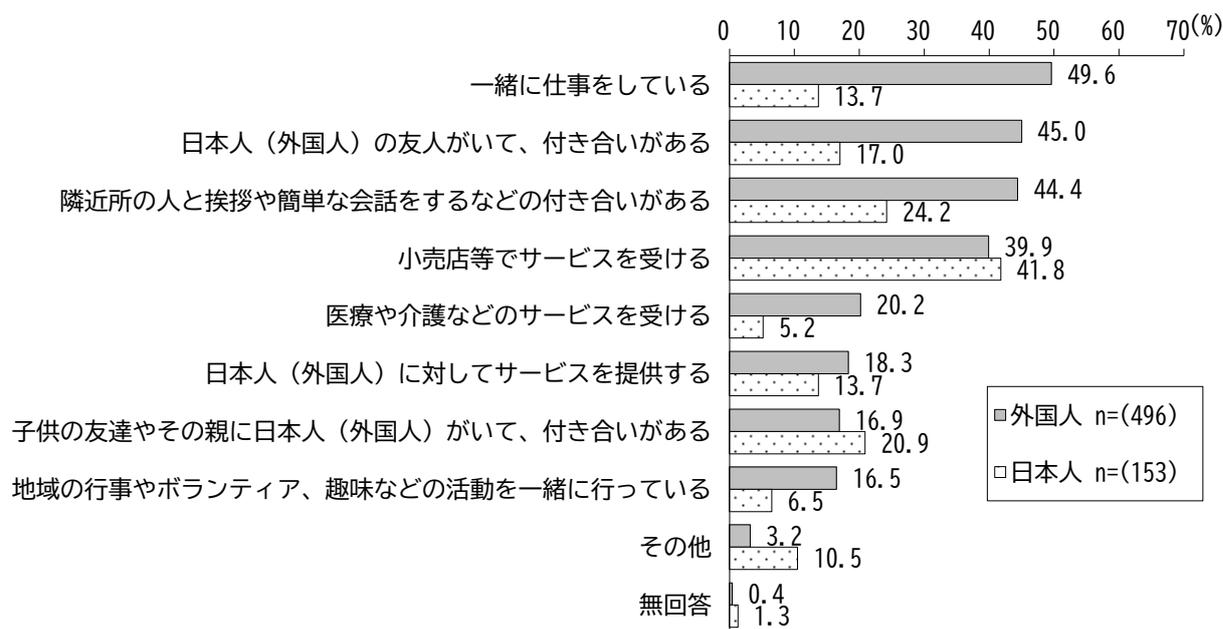
図表 地域に暮らす外国人と日本人が交流する機会 (単一回答)



(5) 地域内で外国人と日本人がかかわる場面（外国人：問36-2、日本人：問14-2）

地域に暮らす外国人・日本人との交流の機会が、「たくさんある」「少しある」と回答した人に、地域内で外国人と日本人がかかわる場面について聞いたところ、日本人は「小売店等でサービスを受ける」(41.8%)が最も高いが、外国人はそれ以上に「一緒に仕事をしている」(49.6%)、「日本人の友人がいて、付き合いがある」(45.0%)、「隣近所の人と挨拶や簡単な会話をするなどの付き合いがある」(44.4%)の割合が高くなっている。外国人の方が、職場・友人・近所など日常の中で比較的親密な関わりを実感する人が多いことがうかがえる。

図表 地域内で外国人と日本人がかかわる場面（複数回答）



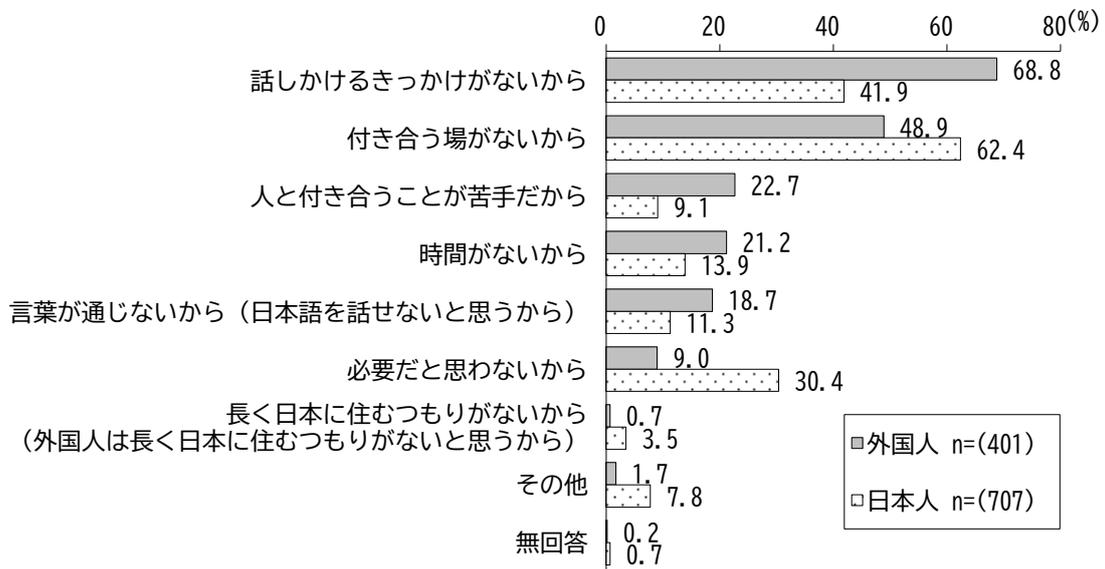
※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の選択肢を基本として記載し、相違箇所には（ ）として日本人調査票の文言を記載している。

(6) 地域内で外国人と日本人が交流する機会がない理由

(外国人：問36-3、日本人：問14-3)

地域に暮らす外国人・日本人との交流の機会が、「全くない」「あまりない」と回答した人に、地域内で外国人と日本人が交流する機会がない理由について聞いたところ、外国人では「話しかけるきっかけがないから」(68.8%)、「付き合う場がないから」(48.9%)の順であるのに対し、日本人では「付き合う場がないから」(62.4%)が「話しかけるきっかけがないから」(41.9%)を上回る。このほか、外国人の方が割合が高い項目は「人とつき合うことが苦手だから」「時間がないから」「言葉が通じないから」で、日本人の方が割合が高い項目は「必要だと思わないから」となっている。

図表 地域内で外国人と日本人が交流する機会がない理由（複数回答）



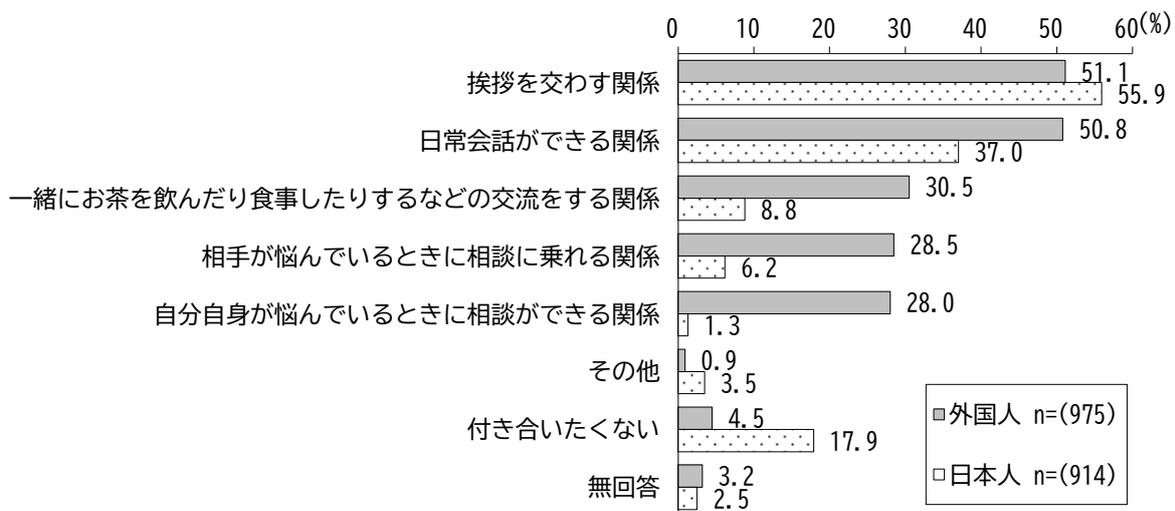
※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の選択肢を基本として記載し、相違箇所（ ）として日本人調査票の文言を記載している。

(7) 地域の外国人と日本人がどのようなつき合いをしていきたいか

(外国人：問37、日本人：問15)

外国人・日本人ともに「挨拶を交わす関係」が最も高く、51.1%・55.9%となっており、日常的なつき合いへのニーズに差はみられない。一方で、「挨拶を交わす関係」「付き合いたくない」以外の項目は、外国人の方が10ポイント以上高くなっている。特に「一緒にお茶を飲んだり食事したりするなどの交流をする関係」「相手が悩んでいるときに相談に乗れる関係」「自分自身が悩んでいるときに相談ができる関係」は日本人で10%未満であるのに対し、外国人では20%～30%台であり、外国人の方がより親しいつき合いを望む傾向が顕著となっている。

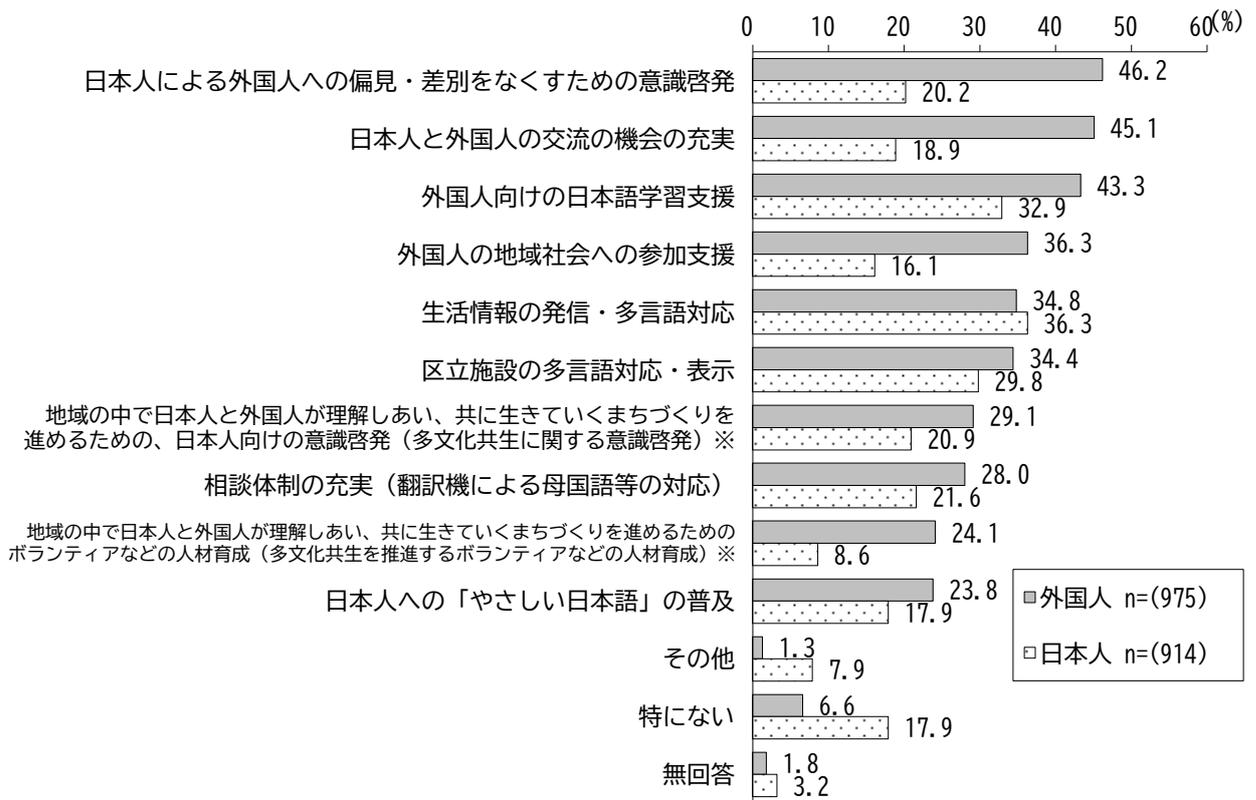
図表 地域の外国人と日本人がどのようなつき合いをしていきたいか（複数回答）



(8) 台東区が力を入れるべきだと思うこと（外国人：問40、日本人：問26）

台東区が力を入れるべきだと思うことをみると、ほとんどの項目で外国人の方が割合が高くなっており、特に「日本人による外国人への偏見・差別をなくすための意識啓発」（46.2%）、「日本人と外国人の交流の機会の充実」（45.1%）、「外国人向けの日本語学習支援」（43.3%）が40%台となっている。一方、日本人は「生活情報の発信・多言語対応」（36.3%）が最も高く、次いで「外国人向けの日本語学習支援」（32.9%）、「区立施設の多言語対応・表示」（29.8%）と、行政サービスの分かりやすさや多言語対応へのニーズが多く、外国人の順位とは差異がみられる。

図表 台東区が力を入れるべきだと思うこと（複数回答）



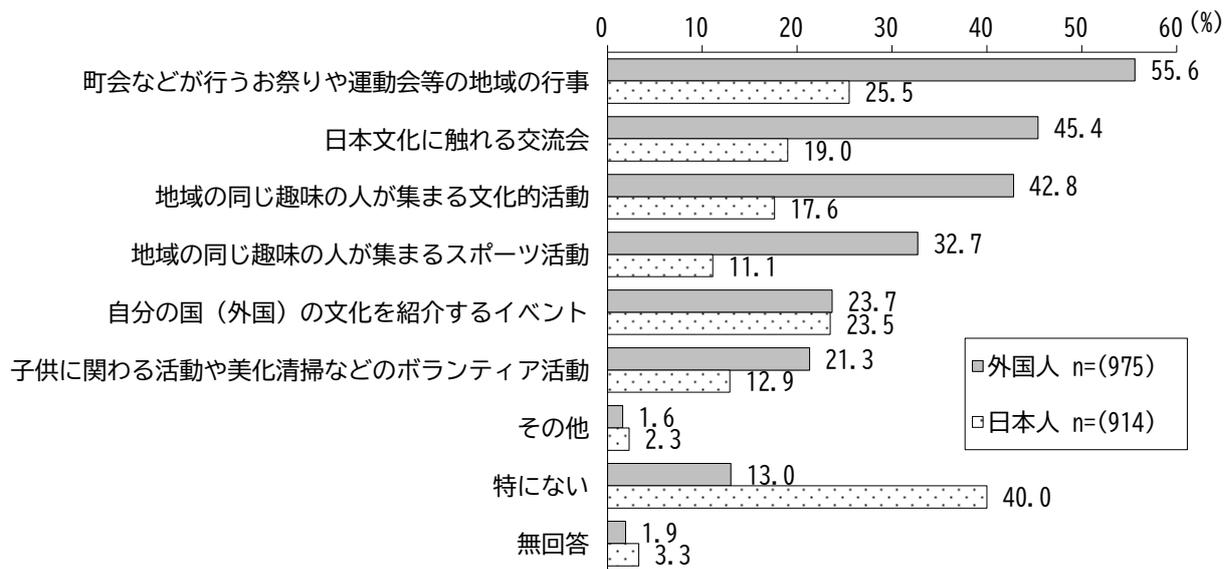
※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の選択肢を基本として記載し、相違箇所（ ）として日本人調査票の文言を記載している。

## 5. 地域での活動について

### (1) 今後参加したい地域の活動（外国人：問42、日本人：問27）

日本人は、「特にない」が40.0%と最も高く、外国人（13.0%）よりも27ポイント高い。今後参加したい地域の活動としては、外国人・日本人ともに「町会などが行うお祭りや運動会等の地域の行事」が最も高くなっている。ほとんどの項目で外国人の方が割合が高くなっており、外国人の上位4項目は日本人と20ポイント以上の差があり、外国人の方が地域活動へより積極的に関わりたいと考えていることがうかがえる。

図表 今後参加したい地域の活動（複数回答）



※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の設問では「今後は、どのような地域の活動に参加したいですか」としており、日本人調査票の設問では「地域で暮らす外国人との理解を促進するためにどのような地域の活動に参加したいですか」としている。選択肢も一部相違があるため、外国人調査票の選択肢を基本として記載し、相違箇所には（ ）として日本人調査票の文言を記載している。